

特249

355

問官
爵

金子堅太郎述

青年に對する希望

東京
大阪
文友堂發行



始



特249
355

青年に對する希望



文友堂
東京
大阪刊

青年

青年に對する希望



緒言

私は放送局の御依頼によつて青年に對する訓話といふ放送をするやうにといふ御依頼でございましたが、私が青年に對して教訓になるべき話をするほどの材料はない。併し私が日本の青年諸君に希望する點は二三ありますから、教訓などいふは烏滸がましいけれども、青年諸君の参考になる一二の私の希望を述べてその義務を果さうと思ふ。

昭和十一年九月二十四日放送

樞密顧問官
伯 爵

金子堅太郎

日本の青年は、將來日本帝國の盛衰興廢を左右する人物であるが故に、實にその責任たるや重大なるものである。よつて青年の精神の修養、また思想の訓練といふことは、日本の將來に對して大問題であると思ふ。私は考へます。よつてそのことをお話したいと思ふ。

青年は自己の幸福・利害のみならず、日本の將來如何に隆昌になるか、また如何に興廢を來すか、この二つの問題を達觀して青年の精神を修養し、またその思想を訓練してもらひたいのである。御承知の通り明治維新の大事業は多くは當年の功臣、又は先輩の青年時代に於て精神を修養し、又その思想を訓練してをられたのが壯年時代になつて維新

の風雲に際會してその機會に突進してあの大事業をなされたから、今日の如き強大な日本帝國が出来たのであります。これは皆維新の功臣の青年時代の精神修養に基くものであると私は確信します。これは獨り日本の維新ばかりではない。眼を世界に放つて、大事業をされた各國の、歐米諸國の大事業を研究してみると東西を問はず、古今を論ぜず、歴史を繙いてみると皆同一である。恰も日本の明治維新の當時と同じことである。斯くの如くなるが故に、今日の青年諸君は日本帝國との密接な關係があるから、私は一、二所感を述べ、青年諸君に希望を述べたいと思ふ。

この第一に私が希望を述べますれば、青年時代は元氣旺盛で勇氣勃々、一たび己れの腦裡に考へ出したことは、それを遂行しようといふ熱心あまり前後左右も顧みず、たゞ馬車馬的に己れの思想を遂行しようといふことで勇往邁進して往々失敗することがある。これは青年時代には免れ得ざることである。併しこの失敗は決して私は咎めない、失敗は却て青年の教訓になる、失敗したといふて萎縮する必要はない。恐縮する必要はない。これはいゝ教訓を自分は與へられたと思ふて、青年はよくその失敗のあとを考へて、これは自分の思慮研究が足らなかつた。それ故にかういふ失敗をしたといふて將來を計畫する

時に大いに警戒し、又熟慮するやうになるなら、この失敗は即ち青年のためには教訓である。しかしその失敗した時に青年諸君が意氣沈銷、そしてもう恐怖心に驅られて、精神萎縮してしまつて奮發することの出来ぬのは、その青年は國家有用の人物になることの出来ぬ青年であるから、失敗したと雖もそんなに悲しむに及ばず、あせるに及ばず、益、自分の失敗の歴史を鑑みて將來實行するといふことに青年はして貰ひたい。この失敗といふは人生に於て如何なる豪傑でも、如何なる英雄でも失敗といふものは進歩の階段を昇る時には免れ得ざるこれは附き物である。失敗する毎に自分の力が進むのである。それ故に失

敗したといふて決して私は憂へるに足らぬ。俗に極く卑近な言葉があるが、人間は七轉び八起きとかういふ、七度轉んでも決して俺は轉んだ儘にゆきやせぬ、又起きあがつて進んでゆく。この七轉び八起きについてをかしな話があります。日露戦役中、私がアメリカにをつた時に、或る日大統領のルーズヴェルトと會食した、食後團樂の時に、一體日本人は今日のやうに戦さに勝つえらい國民であるが、一體日本人の處世の秘訣——世に處する秘訣は何か日本の特色のものがあるかといふて私に問ふた。これは大へん學理上、心理上面倒な問題だけれども、私は軽く受けて「日本人にはそんな難しい秘訣も何もない、たゞ日本に

は七轉び八起きといふ言葉がある。」さうするとその言葉を聞いて大統領は膝を打つて「これは實に千古の名言である」といふて稱讚した。そして彼が自分の經歷を言ふて「實は私は青年時代にハーバードを卒業して以來政治界に身を投じて大いに政治に活躍しようと思つたが、再三失敗した。併しその失敗にもこりず今日迄奮闘したために、今日お前も見るとりこの大統領の官舎にをつて大統領になつた」といふ話をした。それで七轉び八起きといふのは大統領が非常に稱讚した言葉だから、青年諸君も何遍轉んでも起き上つて進んでゆくといふ決心をしてもらひたい。

またこれについて一つの例をお話する。私は黒田家の舊臣であつて、黒田の始祖の黒田長政といふ人が豊前石垣ヶ原の初陣は十五、六の時だつた。父如水から言ひつけられてお前は今度石垣ヶ原の初陣に行くから兵隊を率ゐてゆけと言はれた。喜んで血氣旺んな長政のとであるから家の子郎黨を率ゐて石垣ヶ原に行つた。敵は前面に群がる大軍であつた。その中に突進して、家の子郎黨を率ゐて、自分は馬上で進んだ。さうすると敵はさるもので、その若武者の進んで来るのを見て偽つて退却した。長政は敵が敗れたと思つて突貫した。その機に敵は横合から、左右から出て來て長政の後方の軍と連絡を斷つて

しまつた。そこで長政は四方から敵を受けて惨々な目に遭つた。もうとても斬り抜ける道はないといふことで、敵軍に斬り入つて討死しようとして馬を走らせた。その時家來が一人來て、その馬の轡を掴へて「今はあなたが討死なさる時ではない」まだ若いから「いやもう俺は父に合はず顔がない、此處で討死する」といふて行く所を無理に轡を引いて退却させて、そして敵軍の遮断してをる中を突き切つて自分の本軍に逃げ歸つた。そして歸るは歸つたけれども、大失敗したために、自分の陣屋で寢て、夜具ひつ冠つて、誰にも會はない、恐縮した、かういふ初陣に失敗した。父に合はず顔もない。自分の家の子郎黨に合はず顔も

ないといふて夜具ひつ冠つて寢てをつた。さうすると父如水から戦さの報告をせいといふて呼び出された。これは父の命だから仕方がない。恐るゝ父の面前に行つて、両手をついて、たゞ頭を下げて恐縮してをつた。どうだつたか、今日は大敗軍、負け戦さであります。惨々で逃げて歸つた。父君のお眼にかゝる顔はないと言ふて恐縮してお詫びした。さうすると父如水は「お前は今日はいゝ教訓を與へられた。これはいゝ教訓だから、今度の失敗は永く忘れなさんな」さう言はれ、まことに寛大な父の言葉であります。長政大いに感激して、それからといふものは軍略を研究し、兵隊の配置を研究し、大いに軍學を練つて、そ

の結果後年朝鮮の役には大戦功を立て、又關ヶ原の役に、徳川家康と石田三成があゝの決戦をした時に、徳川方に於て黒田長政は非常な戦功を立て、戰場に於て徳川家康からお墨附を貰つた。此の感状が今黒田家にある。それを見ますと、今日長政の戦功は比類なきものなり、追つて大國を賜るやうにするといふお墨附をその關ヶ原の戰場で家康から貰つた。そして其の後豊前中津の十三萬石の小大名から筑前五十五郡の五十二萬三千石の一躍して大藩の大大名となつた。これは石垣ヶ原の失敗の賜物であるといふことは、我々青年時代から既に聞いてをつた。それで失敗は即ち教訓であるといふことのこれは實例に舉

げたのである。またアメリカの大統領ルーズヴェルトは七轉び八起きは千古の名言と言ひました。

第二には、青年といふものが學校を卒業するといふと、大學であらうが、専門學校であらうが、卒業すると、もう學問はこれで終つた。俺は學者になつた。これで學問する必要はない、かういふことを往々私は聞く、これは大間違である。そも／＼學校といふものは何のためかといへば、卒業した後國家の業務に就いて政治家になるとか、軍人になるとか、吏員になるとか、實業家になるとか、學者になるとかする豫備教育を大學や専門學校で受けただけである。決して學問がそれで終つたも

のではない。これは青年諸君も自分が専門學校や大學を卒業した時は、たゞ豫備教育がすんだといふことに考へられりや決して間違はない。卒業後國家の業務に就て仕事する時が初めて生きた世界の學校に入門したのである。それから後は自分が學校にある時に教はつた學理や學術をもつてそれを實際に應用して、そして國のためにするといふ、つまり活世界に初めて入つたそれからが書生だ、本當の書生、學校にゐる時は豫備教育のみといふ考へ、本當の學問は活世界に入つてからの實際について學校で學んだことを應用して、それからが本當の活學問である。私が明治十一年にアメリカのハーバード大學で法科を

卒業して歸つて來る前に、私が年來指導を受けとつた法科大學の先生に暇乞ひに行つた。その時先生が言ふたことは私が今だに腦裡に残つてをる。その別れに臨んで私に戒められた教訓がある。それはかういふことである。

今日お前が大學を卒業したとて、學問が終了したと思ふてはいけな
い。これからお前が日本に歸つて活世界に出てそれからが本格的に
學問をお前が始める時である。よつてこれから古い本と言はず新し
い本と言はず充分勉強して、國家のために働きなさい。
と言はれた。そもく學問といふものは英語で言へば「ライフ、ウアー

ク終生の事業であるといふことを考へるとかう言はれた。それから歸つて来て一、二年経つと、元老院の役人に私はなつた。第一に私に元老院議長が言ひつけられたのは、當時太政官から元老院に諮問になつた土地名稱區分法といふものである。土地の名稱區分法といふ法律の議案が元老院に下附になり、そこで私にそれを調べて意見を言へと命ぜられた。ところが日本の土地名稱區分などはわからない。しかしアメリカのハーバード大學で二年間土地所有權、土地所有に關する事、英米の土地法は一通り教はつた。自分は大學者のつもりでをつたが、さて元老院に行つて議案を調査しろと言はれたが、何にも知らない、

そこでまあいろいろの先輩に聞き、學者に聞いて漸くと土地名稱區分は日本ではかういふ風になつてゐるといふことを聞いてそれから意見がついて自分の調査報告を議長に出した。それから續いて太政官に轉任して伊藤參議の下に憲法の起草を伊藤參議から命ぜられた。ところが私もハーバードに二年をつて憲法は専門に研究してをつたから、自ら憲法のことには多少知つてをるつもりでをつた。そこで伊藤參議が憲法の起草をせよと言はれた。そこで憲法の起草をしようとするれば、第一條から百何條迄書かんならん。そこでアメリカの憲法を調べてみる。第一條からズツとある。これは自分が研究したこと、と

ころがアメリカは共和國であるから日本には適用が出来ない。少しもアメリカの憲法が役に立たぬ。そこでイギリスの憲法をみると、皆様御承知の通りイギリスの憲法は歴史の中に憲法に關する事柄が書いてある。これは成文はない。それからドイツ、フランス、イタリヤ、オーストリヤ、ベルギー等の憲法をみてみたけれども、どれもそれはその儘日本に適用されぬ。それからいろ／＼の日本のことを調べて、大寶以來王政の時、頼朝が幕府を開いて徳川迄の日本の憲法ともいふべきものをダン／＼研究して、そしてやつとこさ伊藤公の手元迄憲法に關する事を起草をして出したのである。その時私はそゞろに感じた。

痛切に感じた。それは私が明治十一年にアメリカの大學を卒業して歸る時に先生の言はれた言葉に、お前はこれから活世界に出て本當の本格的の學問をするのだから、學問は終生の事業と思ふて勉強せいと言はれたのが、私は實に名言である。以來今日迄私は和漢の古い本、新しい本を繙いて讀み、またヨーロッパ、アメリカで新しい著述が出たといふことを知ればそれを取寄せて、暇さへあれば讀んでゐる。それで私は今なほ老書生と自分は信じて勉強してゐるから、青年諸君も學問を一生の事業であるといふて決して専門學校や大學を卒業して俺はもう學者になつた。學問することはないといふやうなことを考へずに

充分勉強して、日本の將來の計畫をされんことを私は希望する。

第三には、青年はどうも新時代に生れ、又嶄新の學問をしてをるために元氣旺盛で進取活躍の念に驅られ、先輩、又は老人をみてはあゝあれは時代錯誤の人物、我々の新思想とは一しようにならぬ。我々は新時代の新人物だ。あれは嘉永年間、明治時代だ、あれは時代錯誤だといふて往々青年が冷笑するのを聞く、併し今日の日本帝國は誰がつくつたか、明治維新の功臣、又は先輩が艱難刻苦してつくり出したるこの帝國である。それで今日のこの帝國は世界五大強國の一と迄なつてゐる。これは今日の青年がつくつたのでもない、これは皆維新の功臣、先輩が

つくられたのである。この大日本を双肩に擔ふて將來この國運を充分發達させてゆかなければならぬといふ人は誰であるかといへば、現今の青年諸君である。維新の功臣先輩は既にこの世を去つて墓の中に納つてゐる。その大事業を繼續して我が日本帝國を世界に雄飛させようといふのは青年諸君の義務であるから、昔の功臣や先輩の經驗談、又苦心談といふものは實に青年のためには教訓になる。この教訓になることは充分青年諸君は聞き、又それを研究して己れの材料にし、己れの參考になさることが私は必要と思ふ。

アメリカの議事堂に私が行つた。アメリカ合衆國の議事堂の天井

にはローマの男神で「ゼイナス」といふ神様の彫刻がある。これは「ゼイナス」といふ神は身體が一つで顔が二つある。前面と後面と、前に一つの顔がある。後に一つの顔がある。それをアメリカ人にあればどういふわけかといふて聞いたら、これは昔から言ひ傳へにアメリカ合衆國の政治家といふものがこの議事堂に集つて法律、又は政治を議する時には、前面はアメリカ合衆國が世界に向つて如何なる進路をとるかといふことを達觀し、また後背にある顔は、アメリカの古來の歴史と習慣及び、先輩がやつて來たところの經驗のあとを充分調べて過去の歴史を考へ、そしてアメリカの將來の進路を達觀して法律、政治を議せと

いふあれは寓意の彫刻であるといふことを私は聞いて、大いにアメリカ合衆國の議事堂のこの彫刻は我々日本人としても参考になると思ひます。それでこのアメリカのあの共和國、僅か國が出来てから百五、六十年にしかなくてをらぬ新しい國でさへ、既往の歴史を研究してアメリカが將來とるべき進路を研究せよといふ戒めを議事堂に彫刻してゐる。

我が日本帝國は神武天皇以來二千六百年に近い。その間の歴史、その間に政治家、豪傑いろ／＼な人がこの國を經營したといふ歴史を知らずして日本の將來は決して計畫されぬことを私は確信して疑はぬ

のみならず、我が叡聖允文允武の明治天皇陛下の御製を拜觀してそぞろに私は恐懼感激したことがある。よつてこゝに青年諸君に明治天皇の御製を奉讀して御參考に供する。その御製には

さまさまのことにあひにし老人の昔がたりぞ身にはしみける

と明治天皇がお詠みになつた、さまさまのことにあひにし老人の昔がたりぞ身にはしみける——様々のことに遭遇して艱難刻苦して來てこの世を渡つて來た老人の昔がたり昔の話ぞ身にはしみてる。自分の身體にはしみくゝと感ずるといふ。これは私は實に有難い明治天皇の御製と思ふ。

もう一つは、これは新時代に生れ、新思想に教育されてある青年諸君の最も參考になると思ふ。その御製に曰く

進みゆく世に生れたるうなにも昔のことを教へおかなむ

うなるといふは若者、即ち青年といふことである。即ち神武天皇以來二千六百年のこと政治なり經濟なり法律なりすべてのことを教へおかなむ——教へておきたい。「進みゆく世に生れたるうなにも昔のことを教へおかなむ」このお言葉は今の進歩の時代に生れた青年には昔のことはどうでもよい。昔のことはあら時代錯誤だといふやうな考へをもつてゐると明治天皇の思召しに背く、そして「様々の

ことにあひにし老人の昔がたりぞ身にはしみける」「進めゆく世に生
 れたるうなるにも昔のことを教へおかなむ」といふこの二つの御沙
 汰、御製を青年諸君は拳々服膺して、そして常に學問をし、一生學問はす
 てず學問して、この日本帝國の將來を益、發展させなければならぬ一大
 責任が青年諸君にあるから、私はこの希望を今晚述べて青年諸君の御
 参考に供したいと思ふ。(昭和十一、九、二四放送)

昭和十一年十一月一日印刷
 昭和十一年十一月五日發行

定價金拾錢

講述者 伯爵 金子堅太郎

大阪市東區備後町五丁目二五

發行兼印刷者 堀 克 巳

發行所

東京市神田區神保町三丁目六
 大阪市東區備後町三丁目二五

文友堂書店

振替東京四六番
 振替大阪二三六番

(刷印社進交)

樞密顧問官 金子堅太郎閣下述
三五判美本
定價卅五錢
送料四錢

放送の沿革と將來

本書は昭和十年五月十六日放送局創立十週年加入者二百萬記念祝典に際して、ラヂオ放送されたるを閣下の御許しを得て小冊子とし、公刊せしものである。
ラヂオが發明されて、世人が如何に便利幸福を得てゐるか、その發明當時より現在に至るまでの沿革を閣下が詳しく述べられた。一讀を乞ふ。

東京 文友堂發行
大阪

村上 寛 著
四六判美裝 三百五十頁
定價金壹圓 送料拾錢

成功の裏面に働く 母ごころ

血と涙を以つて綴られし實話！
一讀感激溢れ出で感涙に咽ぶ！

◎文部省認定
◎著溪會推薦
本書の一章一句は全く涙なしに讀れぬ。母性愛の崇高なるには何人も大感激。
諸名士全國教育者の激賞推薦せる名著！

第二百二十四版發賣

村上 寛 著
四六判美裝 三百四十頁
定價金壹圓 送料拾錢

熱と愛との結晶 まごころ

忠孝の教訓となるべき良書！
一讀肺腑を衝く萬人奮起の大名著！

◎文部省認定
◎著溪會推薦
母ごころの姉妹篇として十萬讀者の推賞おかざる良書！讀者の感銘せる聲が津々浦々に響き亘り正に昭和出版界を風靡しつゝある親子必讀の書。

第五十九版發賣

東京市神田區神保町三番 文友堂 大阪市東區備後町五番
東京市神田區神保町三番 文友堂 大阪市東區備後町五番

西川雪峰 著

四六判美装 二百七十頁
定價 金壹圓 送料拾錢

孝子養成
の秘訣 孝の修養

孝子は如何にして世に出づる？

一讀直ちに孝道の眞髓に徹する古今稀世の大名著

第十六版發賣

◎文部省認定
家庭教育を閉却又は輕視しては眞に親に仕へる優良兒は認めない。此の意味で本書は家庭教育に缺くべからざる活きた修養讀本なり。

京都童話 教育會

四六判美装 三百五十頁
定價 金壹圓 送料拾錢

義士輝く忠魂
童話

兒童に大和魂を培養する大快著

親も子も共に讀んで面白い天下一の名著

第九版發賣

◎文部省認定
◎各地童話教育會推獎
赤穂義士の精神—忠魂を童話化して日本精神の育成に多大の苦心と努力を以つて初めて世に出た兒童絶好の讀物。

田中常憲 謹著

四六判並製 二百七十頁
定價 金五拾錢 送料六錢

明治天皇御製
昭憲皇太后御歌 讀本

皇國の臣民は一人のこらす讀讀して

御聖旨に報いていただきたい

◎著譯會推賞

全國中等學生及び青年のために著者苦心の結果謹解さる。本書を捧讀すれば自然と我が國體の尊嚴なる所以が明確に悉知することが出来る。さらば何人も座右に備へて讀讀すべきである。

村上 寬 著

菊判讀本型 八十頁
定價 金卅五錢 送料八錢

至誠 忠勇 讀本

非常時修養讀本として何人も一讀せよ

全國中等學校、青年學校の副讀本に最適

陸軍 川島義之閣下 題字
大臣 川島義之閣下
國士 頭山滿先生

(內容) 前出師表(諸葛孔明)
上三高宗一封事(胡濬庵)
述 懷(藤田東湖)
國文に書下し風誦吟詠趣味津々の間にその情操を涵養せしめんとす。

東京市神田區保町三番 文友堂 大阪市東區備後町五番

東京市神田區保町三番

文友堂

大阪市東區備後町五番

東京市神田區保町三番

文友堂編纂◇内容優秀 〓 價最低廉

日記兼用
一日一訓

日 日 の 修 養

菊版レザ装幀
一頁二段組カナ付
二百二十余頁
定價金五拾錢
送料 八 錢

一日一頁心の糧に!!

何日からでも、使用の出来る
最新式、本か!日記か!よく
兩者を兼ねたる苦心の著

本書の特色を見よ!

- ① 各頁の初に、御製及び金言を掲げ、一日一句を心に銘記する。
- ② 一日の修養のために模範となるべき、先賢偉人の名言、遺言を収録す。
- ③ 各頁欄外に家庭の常識―道歌―俚諺等を採録せり。
- ④ 日記欄としての「心のちかひ」は其日の重なる出来事を記録す。
- ⑤ 附録として人名録金銭出納録貯金控郵便料金メートル法を附す。

日 記 附 き 修 養 書 の

文友堂

大坂市東區備後町五
振替 大阪 二 三 六 番

東京市神田區神保町三
振替 東京 四 六 番

終



定價金拾錢